



夢より夢中になれる「今」を持とう

思い出の上本町と近鉄線



大阪上本町は、地上地下の両方で1～9番迄ホームがある近鉄線の一大ターミナルです。天王寺区上本町で生まれ育った私は、近鉄がDNAの一部と言っても過言ではありません。どこへ行くにも駅の真上にある近鉄百貨店を見上げ、そこに我が家の様な安心感がありました。小さい頃母に連れられ、毎日近鉄百貨店地下の食料品、総菜コーナーに買物に行き、誕生日やクリスマスプレゼントは、近鉄の包装紙に包まれた商品でした。子供会で駅南側の映画館に行ったり、飲食店街で友人とたこ焼きやかき氷を食べたものです。

真夏には父に肩車してもらって、エアコンの効いた百貨店の中をよく散歩しました。駅近くの生國魂神社は、地元では「いくたまさん」と呼ばれ、7月11・12日の夏祭りは盛大で、駅から社前迄続く表参道に屋台がぎっしりと並び、小学生の頃は毎夏家族や友人と誘い合わせて遊びに行きました。駅の改札口から、名古屋、奈良、伊勢志摩方面へ次々と出て行く電車をずっと眺めながら、終着駅はどんな所かと夢を馳せたものです。父は教員だったので、時折学会で名古屋へ行くのに、近鉄の名阪特急を利用していました。

上本町から急行で30分程で行けるので、奈良には小さい頃から親に頻繁に連れて行って貰いました。奈良の主な寺社等観光地は行ってない所がないでしょう。東大寺、唐招提寺、法隆寺、橿原神宮…小学校の遠足も奈良が多く、主にバスですが近鉄でも行きました。奈良県内は近鉄が縦横に走っていて便利です。母は急行で1時間、清流の流れる三重県名張市の湫谷、赤目四十八滝が好きで家族で何度も訪れています。親族と近鉄の2階建て特急ビスタカーに乗って伊勢志摩へ行き、伊勢神宮参拝後は赤福餅を食べました。

上本町の隣り環状線との接続駅鶴橋は昔から焼肉店が多く、ホームに立つと肉を焼く匂いが漂い食欲をそそります。焼肉は全国に広まる前から私の故郷のソウルフードです。ガード下の鶴橋商店街は、大阪屈指のコリアタウン猪飼野へ続き、色々と新鮮な食品を扱っていてよく母と買物に行きました。近鉄共栄堂、ヤマ武、石切寿司、上六親父、みかど、いとや、富士屋、出雲屋、天山閣、天地書房、佐伯医院…私は生まれ育った上本町が大好きです。

令和5年8月1日 *上本町(うえほんまち)、生國魂(いくたま)神社、猪飼野(いかいの)

一休さんの名言*

この道を行けばどうなるものか
危ぶむなかれ
危ぶめば道はなし
踏み出せばその一歩が道となる
迷わずゆけよ ゆけばわかる

子供や学生の頃を振り返ると、過去に対してどのような思いを持つか、人生で心が如何に大切かを痛感します。心のあり様の大切さ、心のあり様によって人生は如何様にも変えて行けるからです。自身の運命を変えて行くものは人との出会い、そこから来る感謝の気持ちです。それは唯一つ、私たちの心次第で運命が好転して行く、人の心がけ次第で、運命は変えられるという事です。私が長年、広島県で多少なりと社会の役に立てたのも、出身地大阪と東京での数々の思い出が、人生の心構えを作ってくれたからだと思います。

一見回りくどくても、一から順序立てて説明しようとする私の話し方は、中学の恩師北浦先生の影響だと思っています。先生の専門が英語だったので、英文法の構文組み立てを説明する際、誰にでも分かる様に最初から順序良く話された、それが私の話し方の特徴になっている事に、最近気が付きました。

人生を振り返り、自分を見つめ直す、めまぐるしく変化するこの時代に、人の心のあり方を、思い出の中から考えていきましょう。自分とどんな対話をしているのかなど、自分の内側にある考えや声を意識化し改善、実践していく事が心のあり方のポイントになります。小さなやりがいを見つけ、諦めなければ可能性は広がります。体験には意味がある事を忘れない、自分って幸せだなあ、ありがたいという感謝の気持ち、おかげさまの心を持つと、どんどん幸せな状況やチャンスを引き寄せてくれます。大切な人との出会いや過去の思い出を反芻する事は今後に向かう活力になると、私は思うのです。

*アントニオ猪木が引退式で朗読した言葉、『猪木寛至自伝』にも掲載

花園保育園(K)



夢より夢中になれる「今」を持とう

思い出の小田急線快速急行



新宿～小田原の移動だとJR湘南新宿ラインも選べますが、小田急の快速急行を使うと620円安く、所要時間もほぼ同じです。しかも快速急行は1時間に3本出ていてすごく便利です。小田急は箱根湯本行きの特急ロマンスカーが有名ですが、新宿から通勤電車で行けるのが凄いですね。京都の学校を卒業し、進学に合わせて大阪から東京に転居した私は、渋谷の学校に通っている頃は中野区中野坂上、卒業後更に進学して新宿区西新宿の十二社（都営大江戸線都庁前と西新宿五丁目駅の間）の7イレブン近くに住みました。

新宿駅へは、新宿中央公園、小田急センチュリーハイアット、住友ビルに沿って歩き、講義がある代々木校舎へは代々木上原、湘南校舎へは大根（現在は〇〇大学前）迄小田急線で通いました。大学前とは言え、駅から広大なキャンパスを通って政経学部3号館迄20分程かかりました。好きな勉強に時間を忘れ、講義後も最上階の研究室に残っていて、ガードマンから校舎を閉めますよと内線で告げられた事がしばしばあります。帰りは新宿駅から新宿副都心の高層ビル群の灯りを背にしながら、十二社迄歩いて帰りました。

当時新宿を出た急行は相模大野で小田原行と片瀬江ノ島行に切り離され、7月になると車内は湘南の海に向かう大勢の海水浴客やサーファーで一杯でした。授業はマンツーマンで行われ、成城学園前にある指導教員の自宅へも小田急線で通いました。後に北鎌倉から托鉢で藤沢市の長後、湘南台や江ノ島、鵜沼海岸へ行くのに小田急線を利用しました。今でも東京へ行った時、用事で小田急線に乗りますが、小田原行、藤沢行のどちらでも、快速急行に乗れば昔を思い出し、車窓の景色を見ているだけで心がすごく安らぎます。

人に小田急線に乗るとホッとすると話すと、電車に乗るだけでリラックスするんですかと笑われます。それもその筈、思い出の詰まった路線だからです。デュークエリントンに「A列車で行こう」というジャズのスタンダードナンバーがあります。私のA列車は小田急の快速急行です。何時も座る場所があって、そこは10号車ロングシート、西口改札に近い車掌の見える席です。何故なら、そこは学校に通う際、私が何時も座っていた所だからです。

令和5年8月1日 *大根（おおね）、中野坂上（なかのさかうえ）、十二社（じゅうにそう）



夢より夢中になれる「今」を持とう

思い出の修学旅行東武日光



東武鉄道の看板特急といえばスペーシア、個室やビュッフェを備えた豪華な設備が有名です。この特急の先駆けとなったのが、1960年に登場したデラックスロマンスカーです。東京（浅草）と栃木県日光市を結ぶ特急電車として一世を風靡しました。私が幼稚園の頃、何故か関西を走っていない、東武鉄道のCFが大阪のテレビコマーシャルで流れていたのです。「走る走る東武、乗ろうよ東武のロマンスカー」という出だしで、つつい日光へ行きたくなる曲調でした。中学3年の修学旅行の行先は東京とその日光です。

行先を聞いて私は思わずこのCFを口ずさんでいました。ところが浅草駅に着いてホームに入線したのはCFで見たデラックス特急ではなく、通勤の快速電車でした。日光に行けるなら何でもいいやと、乗客と一緒に快速に乗った私達は、大阪の中学生だとほとんど行った者がいない未知の世界、北関東に向かって出発したのです。途中停車した春日部駅のホームは何番線もあって大きいのに、関西と違い大勢の通勤客がきちんと整列して待っているのに少し驚きました。朝霧の中物音もせず、整然とした光景は幻想的でした。

日光では、雨が降る中をバスで東照宮や中禅寺湖、華厳の滝、杉並木を見て回りました。当時担任の北浦先生からは、大阪市内の公立中学で、修学旅行先に東京より北の日光へ行くのは初めての事と聞かされていました。今夏7月9日、奈良で中学卒業以来となる北浦先生との劇的な再会を果たし、記念となる修学旅行に何故東武の特急ではなく、通勤電車で行ったのか尋ねました。先生は、公立中学では修学旅行の予算が決まっていて、有料特急では予算をオーバーしてしまう、それで通勤電車で行ったと答えました。

前年まで大阪市内の公立中学は信州（長野）が修学旅行先で、東京より更に遠い日光へ行くには、生活が苦しい家もあり、交通費を抑え団体割引で費用の安い快速に乗ったと聞き十分に納得しました。高津中学が試験的に東京と日光へ行けたのは、先生達の工夫と努力の賜物であった事を考えると、感謝しかありません。無事修学旅行を終えた事で、その後大阪市内の公立中学は、修学旅行先として東京と日光を選ぶ事が出来るようになったそうです。

*春日部（かすかべ）、大阪市立高津（こうづ）中学校…天王寺区城南寺町 花園保育園（K）